

(仮称) 草津市歴史資料館整備基本計画(案)に関する
パブリックコメントの実施結果について

実施結果

- 1 実施期間 令和8年7月15日(水)から 令和8年8月14日(金)まで
- 2 意見者数 4人 1団体
- 3 意見総数 31件(意見の内容および意見に対する市の考え方は別添のとおり)
- 4 意見の反映件数 0件

周知方法

広報媒体	実績
計画案(本編および概要版)の配架	配架場所(閲覧者数) ・歴史文化財課 (2人) ・情報公開室 (0人) ・草津市立図書館 (3人) ・南草津図書館 (0人) ・草津宿街道交流館 (0人) ・史跡草津宿本陣 (9人) ・アーバンデザインセンターみなくさ (0人) ・志津まちづくりセンター (0人) ・志津南まちづくりセンター (0人) ・草津まちづくりセンター (0人) ・大路まちづくりセンター (0人) ・渋川まちづくりセンター (0人) ・矢倉まちづくりセンター (0人) ・老上まちづくりセンター (0人) ・老上西まちづくりセンター (0人) ・玉川まちづくりセンター (5人) ・南笠東まちづくりセンター (1人) ・山田まちづくりセンター (0人) ・笠縫まちづくりセンター (2人) ・笠縫東まちづくりセンター (0人) ・常盤まちづくりセンター (0人)
資料送付	送付数: 0件(団体0件、個人0件)
個別説明	説明数: 1件
市ホームページ	アクセス数: 235件(8月17日確認)
広報紙	7月1日号
資料提供	7月14日付け
その他()	

概要版のみ掲示施設

- ・各隣保館（4箇所）
- ・市民総合交流センター

結果公表

- ・市ホームページ 10月1日から

- ・広報紙 10月1日号

- ・資料配架 10月1日～10月31日

- 配架場所
- ・歴史文化財課
 - ・情報公開室
 - ・草津市立図書館
 - ・南草津図書館
 - ・草津宿街道交流館
 - ・史跡草津宿本陣

(仮称)草津市歴史資料館整備基本計画 (案)

提出された意見と市の考え方

No	意見 (ページ数)	市の考え方
1	(14 ページ) 「2. 基本方針」を実行していくにあたり、定期的な意見交換の機会を設けていただきたく、市民レベルの運営協議会の設置を提案いたします。 基本方針の「周辺観光施設と連携し、地域の魅力や回遊性の向上を図る」「芦浦観音寺との連携ガイド」の進め方として、市民レベルの協議会も重要と考えます。	施設整備にあたっては、文化財保護審議会において、意見を伺いながら進めてまいります。 また、運営後には、利用者アンケート等、資料館の運営や事業内容について、意見をいただく仕組みを検討してまいります。
2	(25～26 ページ) 展示室、講座室、体験学習室、情報コーナー、ロッカー室、授乳室等、幅広く計画されているが、その具体的な形の検討には、市民レベルの協議会での検討機会を設けてほしい。	
3	(14 ページ) 歴史資料館と芦浦観音寺との連携について計画を明確にしてほしい。 「2. 基本方針」において、史跡芦浦観音寺跡や琵琶湖博物館、みずの森の周辺観光施設と連携し、地域住民・来訪者の地域の魅力や回遊性の向上を図るとあるが、その具体的な活動の記載がない。	今後、地域や関係団体と連携しながら、回遊性や地域の魅力向上につながる事業等を検討してまいります。
4	(一) 地域を含む回遊性の拠点としてこの歴史資料館を捉えられるとのこと。その回遊性拠点の計画の具体性が十分でないと思われます。	

5	(一) 観音寺廃寺・花摘寺廃寺・観音堂廃寺・片岡廃寺・大般若寺跡・宝光寺跡・長束廃寺等、分かる範囲の寺院跡を回遊できるよう方法を考える。	
6	(16 ページ) 「専門職員の案内による史跡と資料館の見学ツアー」とあるが、史跡と資料館に専門職員が配置されるのか。	資料館の運営方法については、今後、施設整備と並行して検討してまいります。
7	(22 ページ) 配置図に大型バス駐車場の記載が明確ではありません。	駐車場については、今後の設計段階において、大型バスの台数確保に努めてまいります。 なお、公共交通機関としては、ＪＲ草津駅からのバス路線やまめバスの利用も可能であり、関係者と連携の上、回遊性も踏まえ、周知に努めてまいります。
8	(一) バスの便があるのか。 資料館の駐車場は整っているのか。	なお、公共交通機関としては、ＪＲ草津駅からのバス路線やまめバスの利用も可能であり、関係者と連携の上、回遊性も踏まえ、周知に努めてまいります。
9	(一) 観光バス駐車場も、近くのまちづくりセンター・会館等と協力し合って、駐車場の確保や整備・利用の協力、回遊の案内等も一緒に協力して進めて行けないでしょうか。	
10	(一) 見学、観光に集まって貰うためには、交通網の整備が必須と考えます。	
11	(30 ページ) 「史跡芦浦観音寺跡の来訪者を呼び込む」とあるが、日常は一般公開されていない芦浦観音寺からの来訪者を呼び込む具合的な計画はあるのか。	
		史跡芦浦観音寺跡の公開については、史跡整備を進めるとともに、所有者とも協議しながら、検討してまいります。

12	(39 ページ) 「2. 運営方式」において、事業者の参入メリットが小さく、費用対効果が見込みづらいとした結果、「直営方式」を基本としている。 しかし、この事業に係る事業費の見込みや、維持管理費用、来場者の想定見込み等が一切なく、「ハコモノ」ありきで検討されている。 そういった計画なしには税金の垂れ流しでしかなく、今後の財政負担となることが懸念される。	P F I については、施設規模を前提として、重要文化財をはじめとした文化財の保存・展示という公共性の高い役割を担うことや、収益事業の展開も限定的であることから、直営方式を基本として検討を進めようとするものです。
13	(一) 「新築の中止（既存施設の利活用への変更）」を求めるとともに、仮に計画を検討するにあたっては、費用対効果の事前開示および厳格な評価指標（K P I）の設定を強く要望します。	運営指標（K P I）の設定や定期的な検証については、開館後の運営計画の中で、客観的な評価指標の設定等を検討してまいります。
14	(一) 以下の K P I を設定・公表し、定期的な検証制度を計画内に明記してください。 ①年間来館者数およびリピート率の目標達成度 ②1人あたり公費負担額の目標維持（コスト超過の抑制） ③目標未達が続いた場合の「運営方式の見直し」「規模縮小・閉館」も含めた出口戦略の策定	
15	(一) 事業の費用対効果についても示していただきたい。年間来館者数の目標、その算出根拠、施設利用1人あたりに必要となる公費の試算等を公表することで、市民が事業の必要性や妥当性を判断できるようになると考えます。	

16	(一) 建設費を含めた総事業費の全体像が分かりません。用地取得費約7900万円に加え、建築工事費、展示工事費、造成工事費、外構工事、駐車場整備等を含めた総事業費がいくらになるのかを明らかにしていただきたいです。	総事業費および維持管理費等については、今後の建築・展示・造成設計における詳細の検討により、内容や費用が大きく変動するため、基本計画には記載しておりません。 また、ライフサイクルコストについては、ファシリティマネジメントの観点から、初期投資だけでなく長期的な維持管理費用も考慮しながら、今後の設計を行ってまいります。
17	(一) 現時点での概算工事費および想定されるコスト高騰リスクの最大幅を明確に数字で示してください。「着工後に見込みの1.5倍に膨らんだ」といった事態を防ぐための上限予算(シーリング)の設定を求めます。	
18	(一) 公共施設は建設して終わりではありません。建設後には、人件費、光熱費、空調・温湿度管理、防犯・防災設備の維持、収蔵庫管理、展示更新、修繕費等、長期にわたり維持管理費が必要となります。 年間維持管理費の見込みや、30年・50年といったライフサイクルコストについても公表していただきたいと考えます。	
19	(一) 芦浦町という立地において、郊外の土地に多額の公費を投じてまで、ゼロからハコモノを新築する合理的な価値は見出せません。 新築を取りやめ、廃校や既存の公共施設(庁舎余剰スペースや図書館等)のリノベーション、あるいは機能集約に転換することを強く求めます。	施設の整備予定地につきましては、「草津市文化芸術機能等施設整備基本計画の見直し」および「草津市歴史資料館整備基本構想」に基づき、国指定史跡である史跡芦浦観音寺跡の近辺において整備を進めようとするものです。 また、史跡周辺には公共施設として利用可能な既存施設がなく、史跡との相乗効果の観点からも新設で整備しようとするものです。
20	(一) 芦浦観音寺の近くではありますが、	

	駅からかなり遠く、公共交通機関でも不便な場所です。この場所まで来館者が誘致出来るのか疑問です。市有地や既存施設では代替できなかったのか、他の候補地との比較検討の内容についても公表も必要かと思います。	
21	(一) 新築による整備が最も適切な方法なのかについても疑問があります。既存公共施設の改修・活用や、デジタルアーカイブの充実、収蔵機能の分散等、他の選択肢と費用や効果を比較・検討した結果についても示していただきたいです。	
22	(一) 天智天皇が近江朝を開き、近江大津宮が造営された時期には、草津市周辺のこの地域の先祖を祀る風習が、祈りの文化圏として繋がっていたのではないのでしょうか。	貴重なご意見ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
23	(一) 白鳳寺院の講座を年間数回開催する。子供も巻き込んだ体験学習を開催し、子供が興味を持って参加してもらえる企画を順次提示させていく。	白鳳寺院に限らず、幅広いテーマのもと、参加型で多様な学びを促すプログラムの展開を検討してまいります。
24	(一) 本物の仏像・資料・遺物等も順次見られるようにしていく。	重要文化財をはじめとした歴史資産に身近に接することができる施設を目指しており、実物展示を中心とした資料館の整備を検討してまいります。

25	(一) 式内社の説明も、地域の神社のお祭りの様子も、体験学習できるように工夫する。	市域の神社や無形民俗文化財をはじめとする歴史資産の幅広い展示を検討してまいります。
26	(一) 白鳳寺院が十ヶ寺程も建っていたという、祈りの空間が広がっていった地域性をうかがえます。資料館では、これらの状況が分かるように展示説明を加えて下さい。 白鳳寺院も芦浦観音寺を中心に、場所を分かるように提示し、説明版で表示する。	今後の展示計画の中で具体的な内容を検討してまいります。
27	(一) 資料館では、白鳳寺院の発掘調査資料・寺院イメージを映像で見せる計画は賛成です。	
28	(一) 白鳳時代（600年代）に近江と草津が栄華を極めた7つの寺院跡（草津市史）の展示がないようですが、この資料館のある常盤地区の歴史を伝える手段につながります。歴史資料館のある地域として、常盤の発掘調査記録等の記録保存・図面写真から歴史・観光を紹介できるビジュアル映像等を検討願います。	
29	(一) 地元の人々が収集しておられる遺物も、展示できれば幸せです。	企画展として、一時的にお借りする等の展示手法についても検討してまいります。

30	(一) 地元の人々と一緒に、地域を盛上げて行く方法を模索したいです。	地域の魅力向上につながるよう、関係者の皆様と連携の上、事業等を検討してまいります。
31	(一) 芦浦観音寺に関連した将軍家光の上洛時に使用した御座船「弁財天丸」の模型と舳先に取り付けた檣を展示、琵琶湖博物館の丸子船のように御座船を展示の目玉にできればと提案いたします。	限られた展示空間を有効活用する必要があることから、大型かつ固定化される可能性の高い展示は想定しておりません。

▼原案への反映について

パブリックコメントの実施結果による計画（案）の修正・変更はありません。

お寄せいただいた御意見は、計画に基づく具体的な取組にあたっての参考とさせていただきます。